

令和3年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

1 目 的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2 学力検査

国語，社会，数学，理科，英語

3 分析方法

全日制課程の受験者のうち、50校・学科から400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

4 分析結果

(1) 平均点について

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平均	61.2 (55.6)	63.1 (47.8)	47.6 (44.5)	53.2 (61.6)	46.1 (50.9)	271.1 (260.4)	13,625人 (14,590人)

※（ ）は昨年度の値

(2) 得点分布

別冊3～4ページに記載のとおり

(3) 各教科の概況

教科	概況
国語	話すこと・聞くこと及び伝統的な言語文化に関する基礎的な知識の定着は見られるが、文章全体の要旨を的確に把握する力や、本文の叙述に即して適切に表現する力に課題が見られる。
社会	語句記述問題や論述問題の得点率が高く、平均点が昨年度と比べて大幅に上昇したが、論述の解答状況から、「問い」を正確に把握する力や情報を関連付けて論理的に思考・判断する力に課題が見られる。
数学	基礎的・基本的な知識・技能の定着は図られているが、図形を正しくイメージする力、数量関係を整理して立式し処理する力、事象を多面的に考察する力、論理的に筋道立てて表現する力に課題が見られる。
理科	基本的な知識と計算に関する問題で得点率が低い領域があり、基礎的・基本的な知識の定着に差が見られた。また、観察・実験の結果を分析して解釈し表現する力についても課題が見られる。
英語	英語を読んだり、聞いたりした内容を大まかに捉えることはできるが、質問に対して適切に応答したり、話されたり書かれたりした英語から必要な情報を的確に理解する力に課題が見られる。

各教科 共通 (得点率・ 無答率)	知識・理解を問う基礎的・基本的な問題の正答率は高い傾向にある。しかし、複数の既習の知識等を組み合わせて考察する問題や複数の情報から必要事項を抽出し、考え、的確に表現する問題については正答率・得点率が低く、無答率も高い傾向を示している。
----------------------------	---

※無答率：解答欄が空白であったものの割合